

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	個別評価	肯定率 4+3	アンケート結果(%)			
								4	3	2	1
一 地 域 と と も に あ る 学 校 づ く り	(1) 地域を生かした教育活動の充実	・ 地域人材や地域の教育的資源等を生かした教育活動の充実に取り組む。 ※ 教職員・生徒・保護者・地域住民の8割が肯定	A	◇ すべての評価者の8割が肯定しているため、A評価とした。今年度も、「レジェンド交流会」や職場体験学習等を問題なく実施できたことが良好な評価につながったと推測できる。	教職員1	A	100%	67%	33%	0%	0%
				生徒1	A	84%	33%	51%	14%	1%	
				保護者1	A	100%	54%	46%	0%	0%	
				地域1	A	100%	67%	33%	0%	0%	
				◇	教職員1		0%				
				生徒1		0%					
				◆	保護者1		0%				
				地域1		0%					
	(2) 地域の思いを反映させた学校運営	・ 地域の思いを反映させて、学校行事の計画・実施に取り組む。 ※ 教職員・保護者・地域住民の8割が肯定	A	◇ すべての評価者が肯定しているため、A評価とした。地域に開かれた学校づくりの実現に向けて、多くの皆様に御来校いただけるように取り組んでいることが高評価につながっていると考ええる。引き続き、地域や保護者の声を学校行事に反映していく。	教職員2	A	100%	44%	56%	0%	0%
				保護者2	A	95%	27%	68%	5%	0%	
				地域2	A	100%	48%	52%	0%	0%	
				◇	教職員2		0%				
				保護者2		0%					
				◆	地域2		0%				
	(3) 学校評価を踏まえた教育活動の充実・改善	・ 学校評価の結果を踏まえて、教育活動の充実・改善に努める。 ※ 教職員・保護者・地域住民の8割が肯定	A	◇ すべての評価者の8割が肯定しているため、A評価とした。しかし、昨年度まで評価が低かった「家庭学習」の充実については、今年度もどの評価者も低評価だったため、新しい取組が必要だと考えている。学校全体で組織的に取り組んでいきたい。	教職員3	A	100%	44%	56%	0%	0%
				保護者2	A	95%	27%	68%	5%	0%	
				地域2	A	100%	48%	52%	0%	0%	
			◇	教職員3		0%					
			保護者2		0%						
			◆	地域2		0%					
(4) 情報の積極的な発信・受信	・ 学校の取組や生徒の様子を、積極的に発信したり受信したりする。 ※ 教職員・保護者・地域住民の8割が肯定	A	◇ すべての評価者の8割が肯定しているため、A評価とした。しかし、定期的に各種便りを楽しみにしている保護者や地域の皆様に満足していただけるように情報発信していかなければならないと感じている。	教職員4	A	100%	33%	67%	0%	0%	
			保護者3	A	86%	27%	59%	10%	5%		
			地域3	A	100%	63%	37%	0%	0%		
			◇	教職員4		0%					
			保護者3		0%						
			◆	地域3		0%					
学校運営協議会所見	前期	・職場体験学習は3年生での実施ではあるが、学校としての取組の姿勢が伺える。その姿勢に地域(事業所)が応えるという良い構図になっていると思う。 ・職場体験学習において、自己紹介カードのようなものを一本松中学校でも作成してほしい。 ・運動会の種目にもっと保護者や地域住民が参加できるものを元のように増やしてもいいのではないかな。	学校の対応	前期	・一中レジェンド講演会は、地域とともにあり、地域の先輩に学ぶよい機会となっている。地域とともにある学校づくりにつながっていると思うので、継続していき、より良い活動へと発展していきたい。 ・地域コーディネーターが、「地域と学校のつなぎ役」というスタンスで尽力していただいていて、大変ありがたい。 ・職場体験学習については、事業所の方々の意見を次年度に生かし、より充実させていきたい。						
	後期			後期							

二 生 徒 指 導 の 徹 底 と 健 全 育 成	(1) 安心して過ごせる学校づくり	・ 生徒は、楽しく学校生活を送っている。 ※ 教職員・生徒・保護者・地域住民の8割が肯定	A	◇ 教職員・生徒はほぼ10割、保護者も9割近い肯定的な評価のためA評価とした。1割程度の保護者の中には、時折登校を渋る生徒への心配や不安もあり、生徒との意識の違いが表れているものと思われる。	教職員5	A	100%	33%	67%	0%	0%
				◆ 今後も、日々の日記や生活アンケートを活用した生徒理解に努めることで生徒との信頼関係を強化し、保護者とともに、全教職員で生徒指導に取り組んで行くことが大切であるとする。	生徒2	A	99%	53%	46%	1%	0%
					保護者4	A	88%	29%	59%	12%	0%
				◇	地域4,5	A	100%	72%	28%	0%	0%
					教職員5		0%				
				◆	生徒2		0%				
	(2) 積極的な生徒指導の推進	・ 生徒との信頼関係を築き、いじめ・不登校の未然防止と早期発見に努める。 ※ 教職員・生徒・保護者の8割が肯定	A	◇ すべての評価者の8割が肯定しているため、A評価とした。生徒も9割以上が肯定的な評価をしており、今後も教職員、生徒、保護者との情報交換を密にし、生徒が安心して過ごせるように活動していく。	保護者4		0%				
				◆ 授業前後の教員の交代するタイミングや、特別教室への移動などの場面でも、生徒たちから目を離す場面をできるだけ作らないように配慮・工夫し、生徒が安心して過ごせる環境を整えていく。	地域4,5		0%				
					教職員6	A	100%	44%	56%	0%	0%
				◇	生徒3	A	96%	49%	47%	4%	0%
				◆	保護者5	A	85%	12%	73%	15%	0%
	(3) 情報共有と組織的対応の推進	・ 生徒の健全育成に向けて、全教職員が情報を共有し、組織的に対応する。 ※ 教職員の8割が肯定	A	◇ 評価者の8割が肯定しているため、A評価とした。毎朝の職員打合せや、定期的に行う職員会、校内研修会などで各生徒への理解を深め、今後もより良い対応ができるよう、組織として取り組んでいく。	教職員6		0%				
				◆ 学校運営協議会や、すべての評価者の意見を真摯に受け止め、今後も保護者や地域の方々と協力しながら、生徒の健全育成のために活動していく。	生徒3		0%				
					保護者5		0%				
				◇							
				◆							
	(4) 情報モラルに関する学習の充実	・ 情報モラルに関する学習に積極的に取り組む。 ※ 教職員・生徒・保護者の8割が肯定	A	◇ 教職員、生徒の8割以上が肯定しており、A評価とした。各教科での指導の徹底が高い評価につながっていると考える。また、関係機関を活用した「情報モラル教室」は、生徒の意識向上に、大いに役立っている。	教職員7	A	100%	67%	33%	0%	0%
				◆ インターネットの活用が当たり前の時代、生徒に情報モラルの徹底を行う必要があり、いつ事件やトラブルに巻き込まれるか分からないため、家庭や地域と連携して取り組む必要がある。							
				◇	教職員7		0%				
				◆							
	(5) 基本的な生活習慣の定着	・ 「早寝・早起き・朝ご飯」の生活習慣を定着させる。 ※ 生徒・保護者の8割が肯定	A	◇ 生徒は8割以上が肯定しているが、保護者は8割を切っている。「早寝・早起き、朝ごはん」を個別に見ていくと、「朝ごはん」の摂取率は100%に近いため、睡眠に関する生活習慣に課題があるものと思われる。	教職員8	A	89%	33%	56%	11%	0%
				◆ 生活習慣の改善に関しては、家庭生活に深くかかわることであるので、特に保護者の理解が必要だと考える。「保健だより」だけでなく、各種通信等を通して啓発していくことで、改善への手立てとしたい。	生徒4	A	86%	53%	33%	11%	3%
					保護者6	B	78%	15%	63%	20%	2%
				◇	教職員8		0%				
				◆	生徒4		0%				
					保護者6		0%				
	(6) 個別の支援や教育相談の充実	・ 生徒の悩みや願いを早期に把握し、迅速に対応する。 ※ 教職員・生徒・保護者の9割が肯定	A	◇ すべての評価者の8割が肯定しているため、A評価とした。定期的に行う教育相談だけでなく、生徒との普段の会話や表情などから気になる場合は、声掛けや学担への連絡を早めに行っている。	生徒5	A	83%	37%	46%	17%	0%
				◆ 生活習慣の改善に関しては、家庭生活に深くかかわることであるので、特に保護者の理解が必要だと考える。「保健だより」だけでなく、各種通信等を通して啓発していくことで、改善への手立てとしたい。	保護者7	B	76%	17%	59%	24%	0%
				◇	生徒5		0%				
				◆	保護者7		0%				
	(6) 個別の支援や教育相談の充実	・ 生徒の悩みや願いを早期に把握し、迅速に対応する。 ※ 教職員・生徒・保護者の9割が肯定	A	◇ すべての評価者の8割が肯定しているため、A評価とした。定期的に行う教育相談だけでなく、生徒との普段の会話や表情などから気になる場合は、声掛けや学担への連絡を早めに行っている。	教職員9	A	100%	44%	56%	0%	0%
				◆ 今後も定期的な学校生活アンケートや教育相談を行い、生徒理解と事故等の未然防止・問題の早期発見に努めていきたい。	生徒6	A	97%	58%	39%	3%	0%
					保護者8	A	86%	15%	71%	12%	2%
				◇	教職員9		0%				
				◆	生徒6		0%				
					保護者8		0%				
学校運営協議会所見	前期	・「楽しく学校生活をおくっている」の肯定生徒がほぼ100%というのはすばらしいことと思う。 ・SNSやゲーム等の行い方、それに伴う就寝時刻の深夜化などを心配される保護者が多いのではないだろうか。	学校の対応		前期	・一人一台端末を使うことが増えているが、情報モラルに関して生徒がどれほどの意識を持っているのかを把握し、引き続き情報モラルに関する学習を実施していく。 ・今後も、生徒のちょっとした変化に迅速に対応できるようにアンテナを張り巡らせ、誰もが安心して学校生活を送ることができるように努めていく。					
	後期				後期						

三 確 かな 学 力 の 定 着 と 向 上	(1) 楽しく、わかる授業の充実	・ 楽しく、わかる授業に取り組む。 ※ 教職員・生徒・保護者の8割が肯定	B	◇ 教員は10割だが、生徒は8割を下回っている。教員は、ICTを積極的に活用したり、学習形態（ペア・グループ）を工夫したりして、授業改善に取り組んでいる。	教職員10	A	100%	33%	67%	0%	0%
				◆ 生徒が授業が楽しいと感じることができ、さらにしっかりと理解できたと感じる授業を目指して、今後も授業改善に努める必要がある。しかし、楽しいことばかりの授業では、学習内容の定着は難しいと思われるので、そのバランスを大切にしていきたい。	生徒7	B	76%	25%	51%	24%	0%
				保護者9	B	73%	7%	66%	20%	7%	
				◇	教職員10		0%				
				◆	生徒7		0%				
				保護者9		0%					
	(2) 問題解決的な学習の充実	・ 主体的・対話的で深い学びを意識した授業に取り組む。 ※ 教職員・生徒の8割が肯定	A	◇ 全校で行うSDタイムや各教科での話し合い活動を通して、主体的・対話的で深い学びを意識した授業につながった。これらの取組から、自分なりの正解を導き出せる生徒が増えてきている。	教職員11	A	100%	44%	56%	0%	0%
				◆ 少人数集団の話し合い活動では、自分の意見をしっかりと発表し合うことができるが、全体の中では積極的に発言できない生徒が多いので、発表しやすい雰囲気づくりや積極的な態度を育成する工夫をしていきたい。	生徒8	B	79%	49%	30%	18%	3%
				◇	教職員11		0%				
				◆	生徒8		0%				
	(3) 教育のデジタル化の推進	・ コンピュータを活用し、個々に応じた学習に取り組む。 ※ 教職員・生徒・保護者の8割が肯定	A	◇ 教職員の10割、生徒の8割以上が肯定しているためA評価である。デジタル教科書やCANVA等、複数のツールを活用したり、EILSやドリルパークを活用するなど、学習用端末を最大限に活用している。	教職員12	A	100%	22%	78%	0%	0%
				◆ 今後もICT機器を有効活用していき、学習用端末の活用が、学力の向上や学習習慣の確立に結び付くように工夫していきたい。	生徒9	A	82%	49%	33%	11%	7%
				保護者10	A	86%	20%	66%	15%	0%	
				◇	教職員12		0%				
				◆	生徒9		0%				
				保護者10		0%					
	(4) 家庭学習習慣の定着	・ 家庭学習1日90分(宿題や塾の時間も含む)の習慣が身に付いている。 ※ 教職員・生徒・保護者の8割が肯定	B	◇ 家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が少なからず存在する。また、各教科の宿題やそれぞれの学年で実施している自主学習ノートなどを毎日提出できていない生徒もあり、学習意欲等について差があることが伺える。	教職員13	B	56%	0%	56%	44%	0%
				◆ 各定期テストへの計画的な取組や毎日の宿題や自主学習の取組の重要性が伝わるような工夫をしていきたい。学習委員会からの啓発活動や各学年に応じた学習内容についての指導、個別指導を充実させていきたい。	生徒10	B	65%	30%	35%	25%	10%
				保護者11	B	66%	10%	56%	29%	7%	
				◇	教職員13		0%				
				◆	生徒10		0%				
				保護者11		0%					
(5) 図書館機能の活性化	・ 各教科等の学習や様々な活動の場面において、図書室の活用に努める。 ※ 教職員・生徒の8割が肯定	B	◇ 一人一台端末で調べものができるようになり、本を用いた調べ学習や本から情報を得る機会が減少している。	教職員14	B	67%	0%	67%	33%	0%	
			◆ 図書室にある本の周知を行うほか、各教科で使うことができる図書を増やしていきたい。また、購入希望図書についても随時募集したり、本の魅力を紹介したりして図書室の充実を図りたい。	生徒11	B	57%	25%	32%	33%	10%	
			◇	教職員14		0%					
			◆	生徒11		0%					
(6) 教職員の資質・教科指導力の向上	・ 資質や指導力を高めるために研修や自己研鑽に努める。 ※ 教職員の8割が肯定	A	◇ 教員の8割が肯定しているため、A評価とした。日々の研修に意欲的に励み、自己研鑽に努めている。	教職員15	A	89%	11%	78%	11%	0%	
			◆ 今後、校内研修において、一人一研究授業や新任者の研究授業等を通して、指導力の向上を学校全体として取り組む必要がある。								
			◇	教職員15		0%					
			◆								
学校運営協議会所見	前期	・家庭学習の充実は、個人差もあり難しいと思う。何事もそうだが、「なぜ～するのか」の「なぜ」の根拠となる部分をしっかりと自覚させることで「やらされる」から「やる」につながるのではないかと。 ・SD活動は、コミュニケーション能力の育成につながっていると思う。今後も継続してほしい。	学校の対応	前期	・ある学年では、自主ノートを3冊用意して、他の生徒がどのような取組をしているのかを知るために、交換自主ノートとしている。自分の番が来たら、前の人の取組についてコメントしたり、他の人のノートを参考にしたりして、自分なりに考えて取り組める工夫をしている。他の学年でも推奨していき、家庭学習の習慣化につなげていきたい。						
	後期			後期							

